

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 13年3月 ～緩やかな持ち直しが続く

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

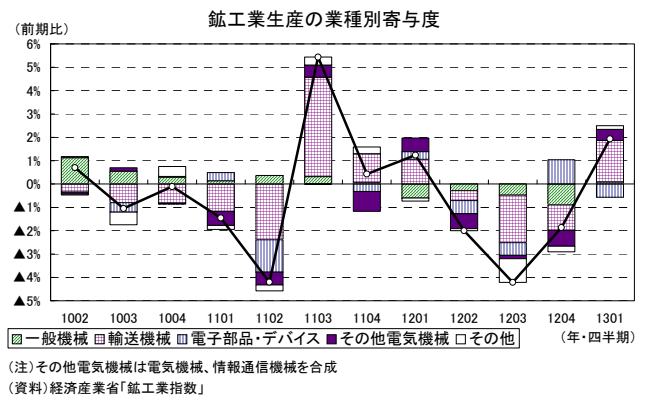
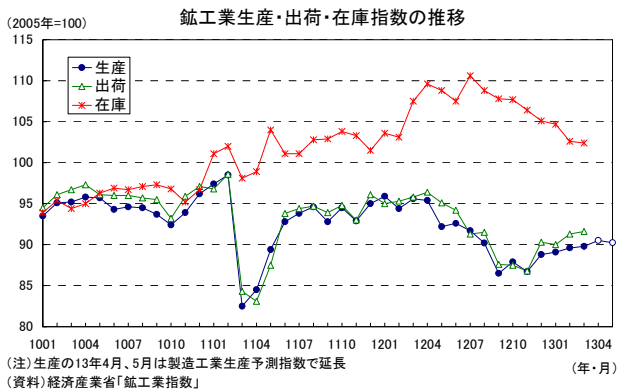
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産は4ヵ月連続の上昇

経済産業省が4月30日に公表した鉱工業指数によると、13年3月の鉱工業生産指数は前月比0.2%と4ヵ月連続の上昇となり、ほぼ事前の市場予想（QUICK集計：前月比0.4%、当社予想は同0.3%）通りの結果となった。出荷指数は前月比0.3%と2ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比▲0.2%と8ヵ月連続の低下となった。

3月の生産を業種別に見ると、好調が続いていた輸送機械は前月比▲5.0%と4ヵ月ぶりに低下したが、情報通信機械（前月比7.9%）、電子部品・デバイス（同4.7%）が高い伸びとなったほか、輸出の持ち直しを反映し、鉄鋼（前月比2.1%）、一般機械（同1.1%）が堅調な動きとなった。

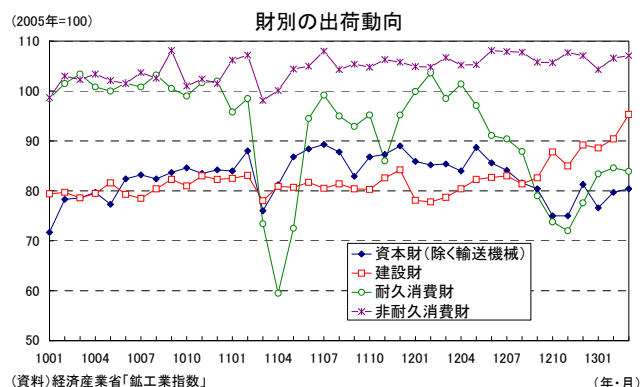
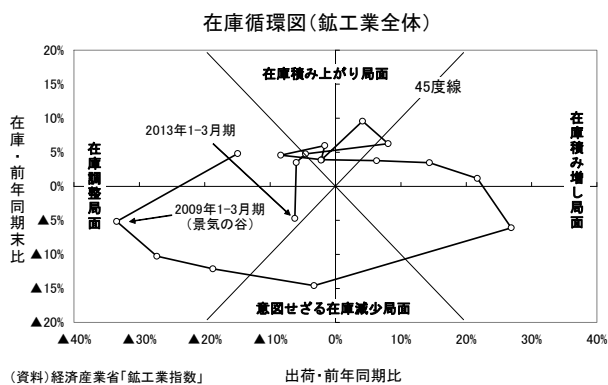
速報段階で公表される16業種中、8業種が前月比で上昇、8業種が低下した。



13年1-3月期の生産は前期比1.9%と4四半期ぶりの上昇となった。業種別には、12年度入り後の生産低迷の主因となっていた輸送機械が前期比10.9%の高い伸びとなり、これだけで1-3月期の生産指数は2%近く押し上げられた。一方、電子部品・デバイスはスマートフォン向けの落ち込みが響き10-12月期の前期比11.7%から一転して同▲5.6%の大幅マイナスとなった。

2. 在庫調整が進展

在庫循環図を確認すると、12年10-12月期に「在庫積みあがり局面」から「在庫調整局面」に移行した後、13年1-3月期も「在庫調整局面」にとどまったが、「意図せざる在庫調整局面」に近づく動きとなった。1-3月期の在庫指数は前期比▲2.6%と2四半期連続の低下、前年比では▲4.7%と12四半期ぶりの低下となっており、在庫調整が順調に進捗していることを示している。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は12年10-12月期の前期比▲6.0%の後、13年1-3月期は同2.3%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は12年10-12月期の前期比6.1%の後、13年1-3月期は同4.7%となった。GDP統計の設備投資は12年1-3月期から10-12月期まで4四半期連続で減少しているが、13年1-3月期は緩やかながら5四半期ぶりの増加となる可能性が高いだろう。

消費財出荷指数は12年10-12月期の前期比▲6.8%の後、13年1-3月期は同5.7%となった。非耐久消費財は前期比▲0.7%（10-12月期：同▲0.4%）と小幅な減少となったが、自動車販売の好調を主因として耐久消費財が前期比12.8%（10-12月期：同▲13.2%）の高い伸びとなった。GDP統計の個人消費は12年10-12月期に前期比0.5%と3四半期ぶりの増加となったが、13年1-3月期はさらに伸びを高める可能性が高い。

3. 生産計画は慎重だが、上方修正の可能性も

製造工業生産予測指数は、13年4月が前月比0.8%、5月が同▲0.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（3月）、予測修正率（4月）はそれぞれ0.8%、1.1%となり、実現率は5ヵ月ぶり、予測修正率は2ヵ月ぶりのプラスとなった。

予測指数を業種別に見ると、4月は輸送機械（前月比9.8%）、一般機械（同7.9%）、5月は情報通信機械（前月比3.3%）、電気機械（同2.7%）、電子部品・デバイス（同2.4%）が高めの伸びとなっているが、4月、5月ともに半数以上の業種が前月比でマイナスとなっている。アベノミクスへの期待から企業のマインドは大幅に改善しているが、輸出の回復が遅れていることもあり、製造業の生産計画は引き続き慎重なものとなっている。

13年3月の生産指数を4月、5月の予測指数で先延ばし（6月は横ばいと仮定）すると、13年4-6月期は前期比0.9%の上昇となり、1-3月期から伸びが低下する形となる。ただし、円安効果の顕在化により輸出の回復基調が明確となれば、現時点の生産計画は上方修正される可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。